

## 7. 黒豚生産農場の経営規模拡大に対する支援

宇佐家畜保健衛生所

○ (病鑑) 利光 昭彦・(病鑑) 長岡 健朗  
長谷部 恵理・(病鑑) 内田 雅春

### 【はじめに】

養豚経営を取り巻く情勢は枝肉価格の低迷と配合飼料価格の高騰により、一層厳しくなっている。このような中、生産者はコストの削減や生産性の向上に努めている。今回、徐々に飼養規模を拡大した黒豚生産農場において、パソコンを活用した母豚管理や乳牛の初乳を主体とした出荷不適乳（以下、余剰初乳という。）の利用などの取り組みに支援・指導を行い、一定の成果が得られたのでその概要を報告する。

### 【農場の概要】

母豚50頭から100頭規模へ一貫経営を拡大することを目標に、県の補助事業など活用して、肥育（オガコ）豚舎1棟と堆肥舎1棟を新築するとともに母豚舎、分娩舎の改造を行った。規模拡大にあたり、飼料コストの削減が期待できそうな余剰初乳の給与を検討していたが、安全性に対する不安を抱いていた。当家保はその対応について支援の要請を受けた。

### 【支援の概要】

- (1) 繁殖管理：母豚管理台帳に基づく繁殖成績の把握や母豚の更新並びに繁殖検診対象豚の抽出について、台帳管理からパソコンでのシステム管理への移行に取り組んだ。超音波診断装置を用いた妊娠鑑定は2007年4月から2009年10月まで、計31回、396頭を検診した。
- (2) 余剰初乳給与への支援：近隣の酪農家から余剰初乳を譲り受け豚に給与することにより子豚の発育や育成率の向上を目指した。給与するにあたり衛生面の支援・指導を実施した。
- (3) 衛生検査：巡回時の臨床検査や当該農場からの依頼を受け、各種抗体検査等の衛生検査を実施した。

### 【結果】

- (1) システム管理により迅速で的確に繁殖成績の把握ができ、効率的な母豚の更新が図られた。また、妊娠鑑定の際には検診対象豚の自動抽出を可能にした。繁殖検診396頭中、受胎が確認されたのは360頭（受胎率90.9%）であった。
- (2) 余剰初乳中の一般細菌は酪農家から譲り受けて3時間までは増殖が緩やかであったことから給与までに要する時間を短縮するように指導した。余剰初乳中の細菌数は夏期に多く、冬期に減少する傾向を示した。牛乳中残留抗生物質検出簡易キット（IDEXX社）ではβ-ラクタム系抗生物質は検出されなかった。給与による下痢の発生など悪影響は認められなかった。
- (3) 衛生管理では各種抗体検査を行い、ワクチンプログラムの改善を図った。

### 【考察】

養豚農場の生産性向上において家保の担う役割は抗体検査などの衛生指導以外に、経営の改善に向けて一歩踏み込んだ支援も期待されている。今回、当該農場は順調に母豚数、出荷頭数を伸ばすことができ、経営規模の拡大が図られた。今後もこの取り組みを継続して更なる生産性向上への支援を行いたい。